

# 神経内科：パーキンソン病

40-079 パーキンソン病で誤っているのはどれか。

1. 起立性低血圧がみられる。
  2. 小字症が認められる。
  - ③ 振戦は運動によって増悪する。→ 企図振戦であり、小脳失調ではない。
  4. 方向転換が困難になる。
  5. 立ち直り反応が障害される。
- パーキンソン病では、安静時振戦がおこる。

41-086 パーキンソン病で誤っているのはどれか。

- ア. 固縮
  - ① イ. 病的反射 **錐体路障害**
  - ② ウ. 企図振戦 **小脳失調**
  - エ. 仮面様顔貌
  - オ. 寡動 = 無動
1. ア、イ 2. ア、オ ③ イ、ウ
  4. ウ、エ 5. エ、オ

42-083 パーキンソン病で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 眼振が出現する。→ 小脳の障害ではない。
- ② 立ち直り反応が低下する。
3. 下肢ミオクローヌスが頻発する。パーキンソン病で下肢のミオクローヌス(筋強直)がおこることは少ない。
4. 運動によって振戦が増悪する。→ 企図振戦であり小脳失調ではない。
- ⑤ 初期症状は一側性に出現する。

45-A-092 Parkinson 病で認められるのはどれか。2つ選べ。

1. 反張膝 **片麻痺、大腿屈頭筋の筋力低下による。**
- ② 前傾姿勢
- ③ 突進歩行
4. 大殿筋歩行 **大殿筋の筋力低下による。**
5. はさみ足歩行 **軽直型脳性麻痺による。**

49-A-084 抗 Parkinson 病薬の長期投与によって生じうる症状として誤っているのはどれか。

- ① 1. 高血圧 **起立性低血圧**
2. on-off 現象 **薬が切れている時は症状がおさまる(ON状態)、薬が切れると症状が出現(off状態)となる。**
3. 精神症状の出現 **(幻覚、妄想)**
4. Wearing-off 現象 **薬の効果持続時間が短縮し、症状が変動する状態**
5. 不随意運動の増強 **(ジスキネシア、サジストニアなど)**

49-P-089 Parkinson 病の症状、徴候について正しいのはどれか。

1. 企図振戦 **は、中幻に手をのぼろうとする振戦がおこるもので小脳失調ではない。パーキンソン病：安静時振戦**
2. アテトーゼ **は、アトーシ型脳性麻痺ではない不随意運動。**
- ③ 3. Myerson 徴候 **は眉間を連続して叩打たると種らん様に閉眼するので、パーキンソン病の特徴である。**
4. ミオクローニー発作 **は筋の瞬間的筋強直で、てんかんではない。**
5. 折りたたみナイフ現象 **は、伸縮筋に対して持続的に伸張を加えると、急に緊張が低下するので、錐体路障害ではない。**

パーキンソン病  
 原因: 中脳黒質の変性により、ドパミン分泌↓  
 発症: 中年以降  
 非対称性に発症(片側上肢へ)  
 4大徴候: 振戦(4つの細かきふるえ、安静時)  
 固縮(歯車現象、鉛管現象)  
 無動(動作緩慢、仮面様顔貌)  
 姿勢運動障害  
 自律神経症状  
 起立性低血圧、便秘、発汗過多、  
 脂溶性顔貌、排尿障害  
 その他  
 前傾姿勢  
 小字症  
 Myerson 徴候